

水辺環境と地域の共生に向けて

～美々川・ウトナイ湖～

北海道 胆振総合振興局 室蘭建設管理部苫小牧出張所
主任 木内 笙

美々川について

～原始の姿が残る美々川～

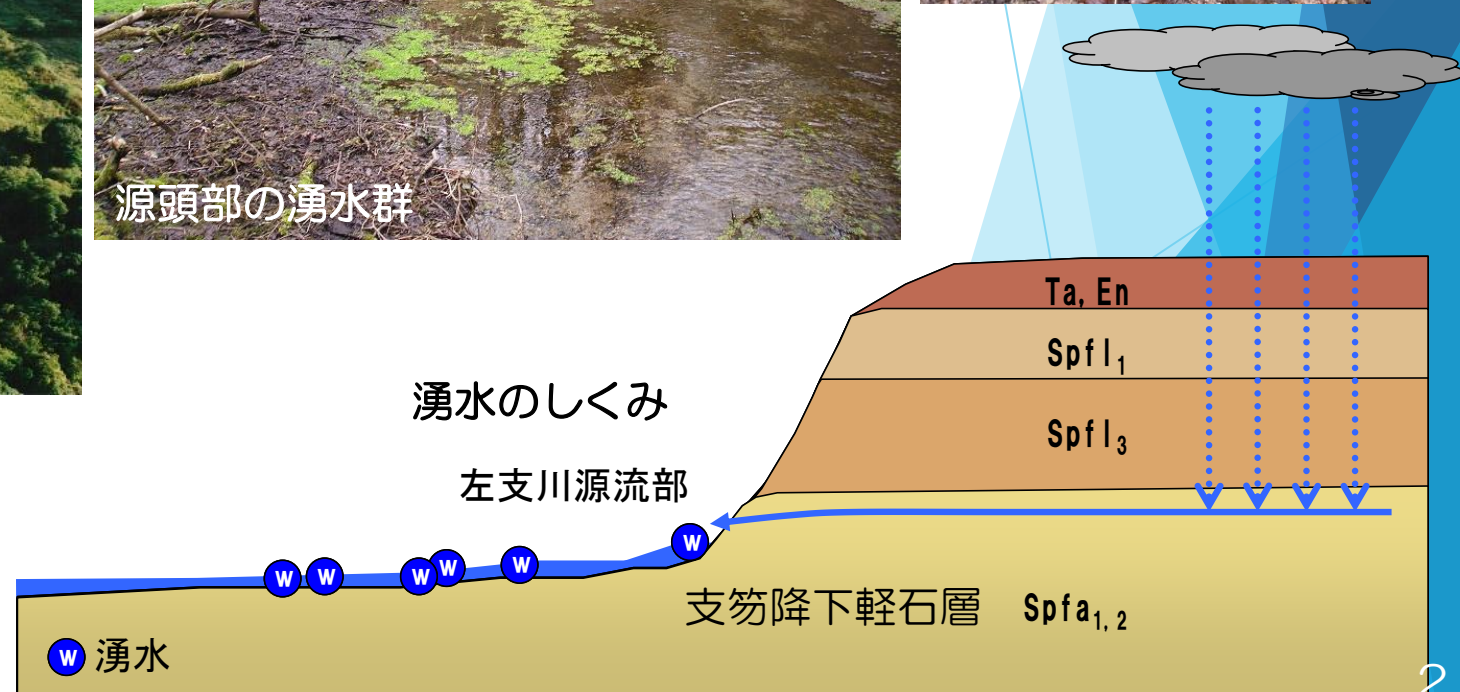
ウトナイ湖に流入する
主要河川の中の1つ

- 延長約14.7 km
- 流域面積約117.7 km²
- 流量の約8割が湧水
- 周辺は新千歳空港、牧草地、畑地等が広く分布
- 河川周辺に自然性の高い樹林地や水生植物群落が分布



美々川について

～原始の姿が残る美々川は湧水起源～



ウトナイ湖について

～鳥類の楽園ウトナイ湖～

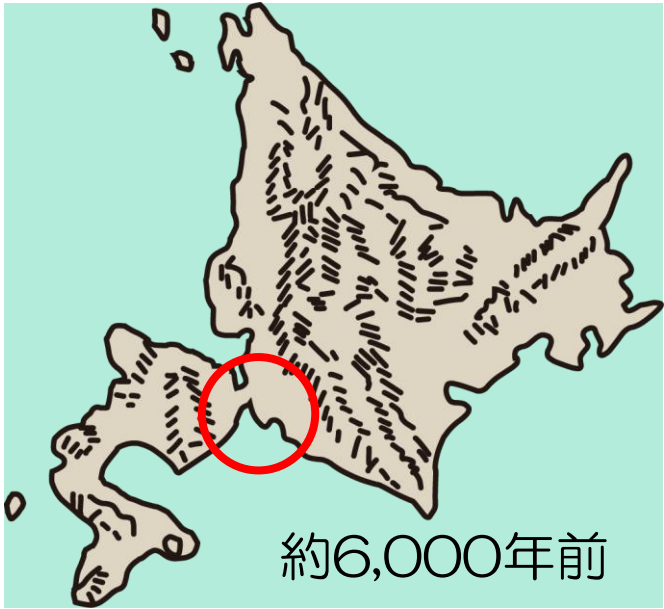


ウトナイ湖について

～ウトナイ湖は海跡湖(かいせきこ)～



縄文
→
海進



先カンブリア代		～5.8億年前	
古生代		5.8億年前～	
中生代	三疊紀		2.5億年前～
	ジュラ紀		2.1億年前～ 恐竜全盛
	白亜紀		1.4億年前～ 恐竜絶滅
新生代	第三紀	暁新世	6,500万年前～
		始新世	5,500万年前～
		漸新世	3,800万年前～
		中新世	2,400万年前～
		鮮新世	500万年前～
	第四紀	更新世	170万年前～ 氷河時代 人類出現
		完新世	1万年前～

自然再生について

～自然に対する社会関心の高まり～

平成15年(2003年)「自然再生推進法」が施行

→平成19年(2007年)3月「美々川自然再生計画書」策定

目標は1960年～1970年代の自然環境再生と保全

ちなみに・・・

このころの日本は

- ・小泉純一郎首相
- ・北海道知事は高橋はるみ

出来事

- ・1997年：トヨタ初代プリウス(資源・環境に配慮したハイブリッドシステム車)が発売
キャッチコピーは「21世紀に間に合いました。」
- ・2005年：愛知万博(愛・地球博)開催
テーマ「自然の叡智 Nature 's Wisdom(ネイチャーズウィズダム)」



自然再生について

～美々川自然再生技術検討委員会の設立～

平成14年(2002年)～

※平成29年度より懇談会に名称変更

技術検討懇談会

※自然再生事業の方針を決定



アクションプログラムワーキング

※個別課題を学識者等により検討

目的

- ・健全な水辺環境と水循環の回復による多様な生態系の維持
- ・豊かな自然と共生する地域社会の形成

取組

- ・流水環境の復元と保全
- ・湿地環境の復元と保全
- ・地域との共生

本日の話題



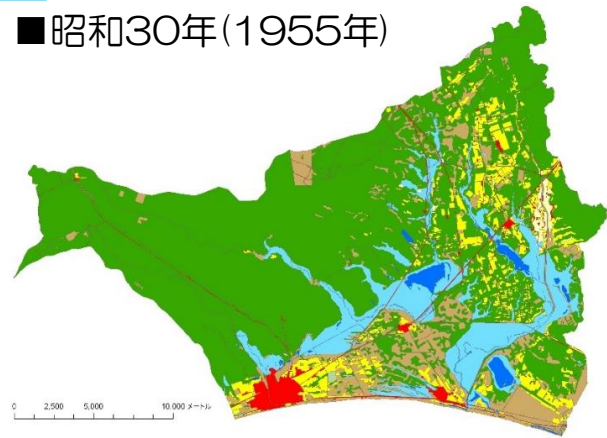
水辺環境と地域との共生に向けて



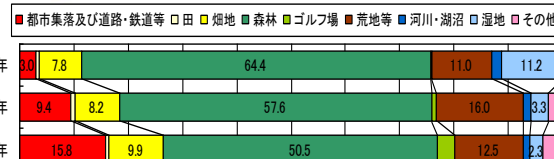
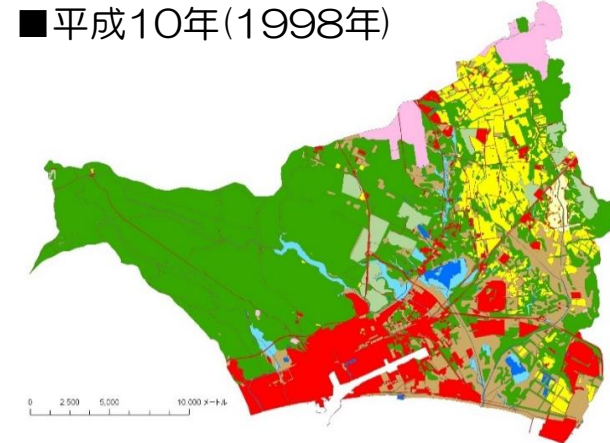
ウトナイ湖周辺湿地化(復元)の取組について

～土地利用の変化・河川改修の歴史～

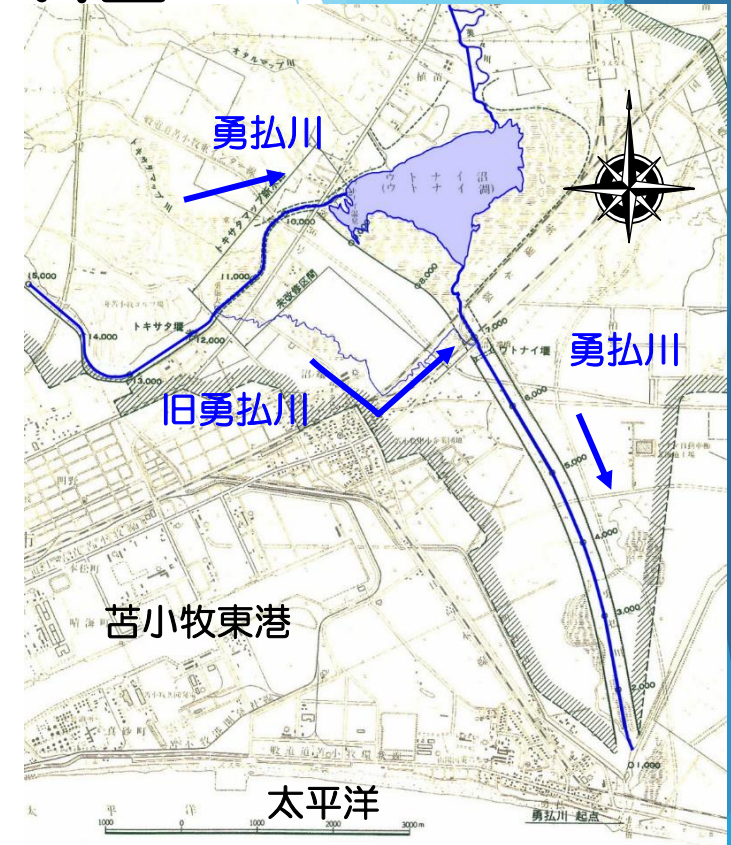
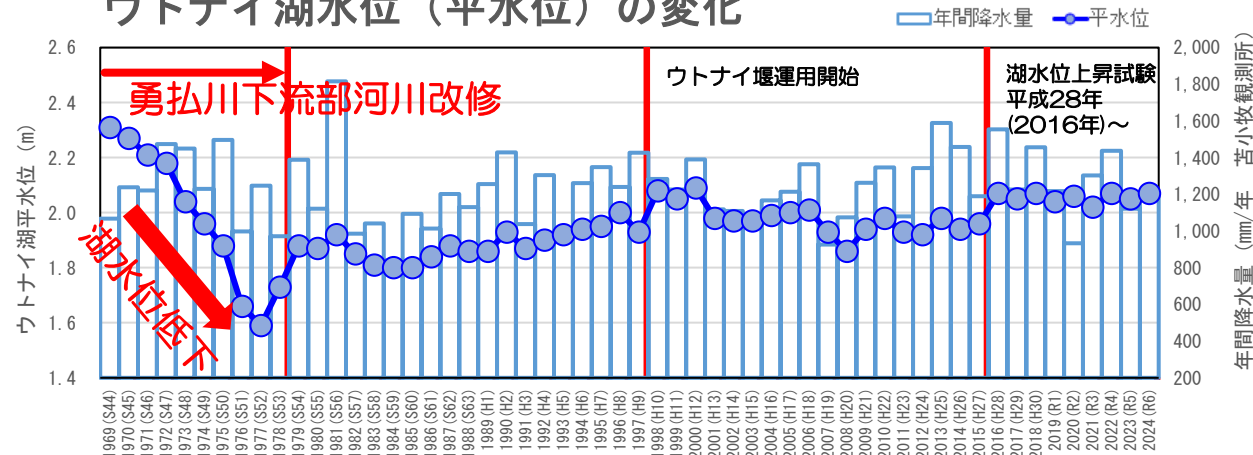
■昭和30年(1955年)



■平成10年(1998年)

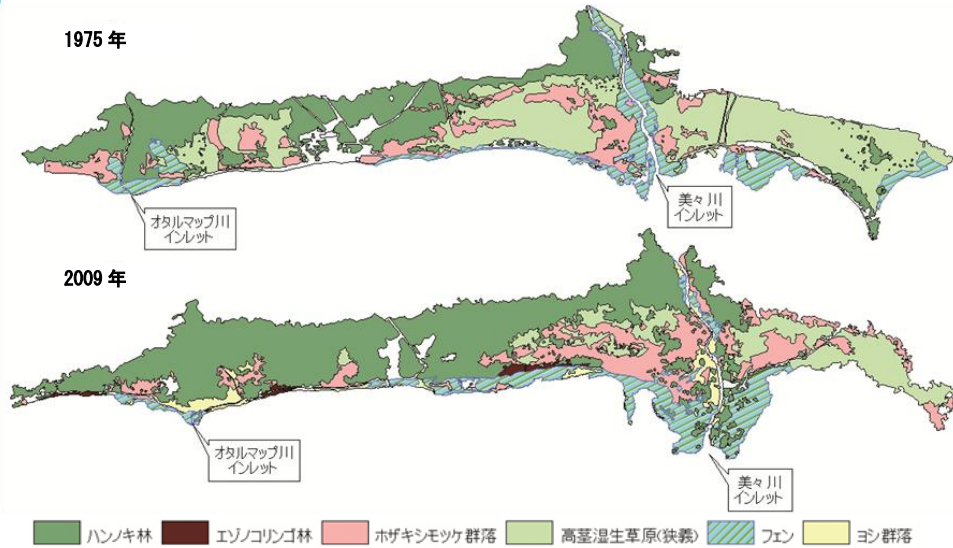


ウトナイ湖水位(平水位)の変化



ウトナイ湖周辺湿地化(復元)の取組について

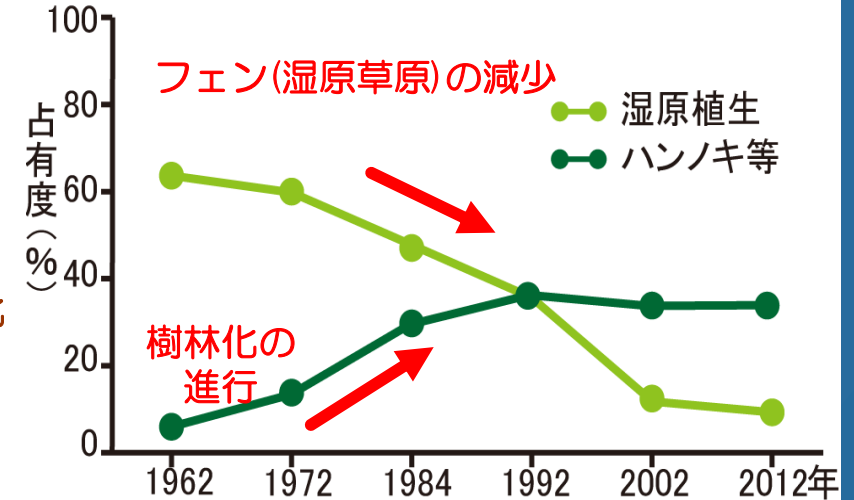
～ウトナイ湖周辺湿地の乾燥化～



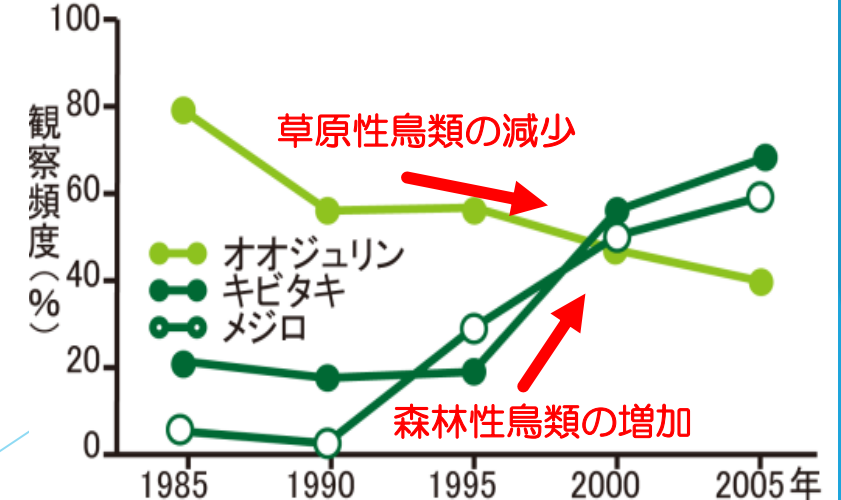
ウトナイ湖北西岸の植生変化(矢部委員長提供)



湖岸から内陸70m範囲の植生変化

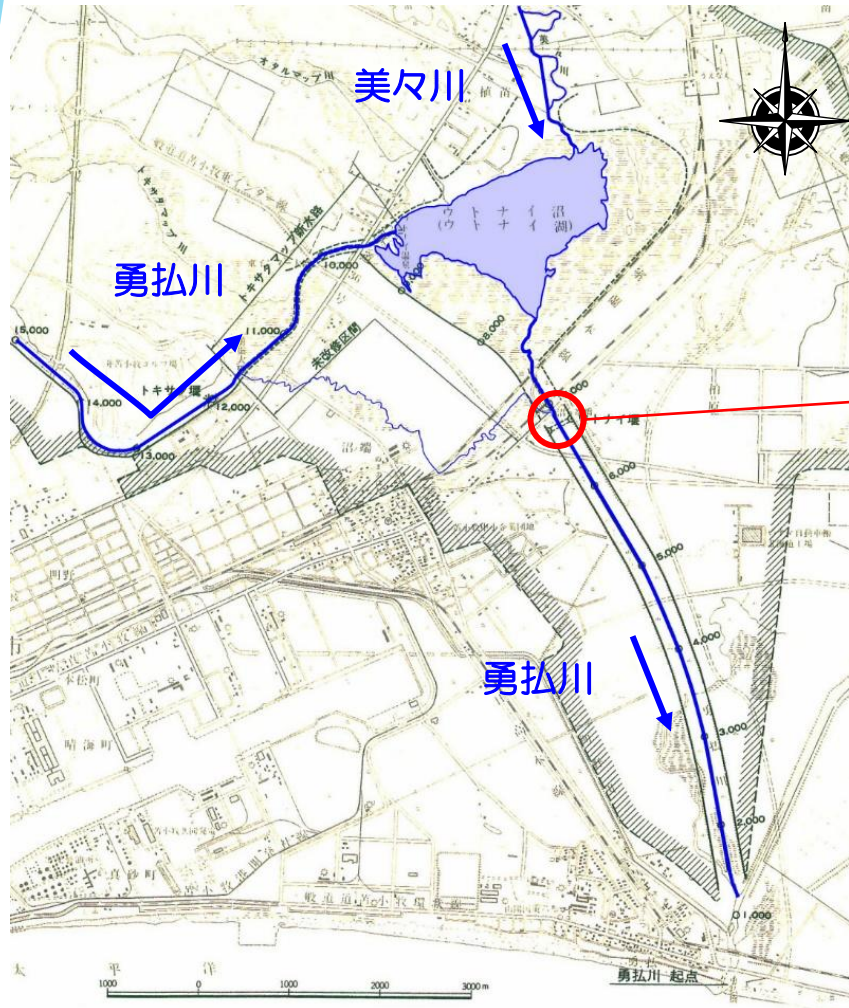


ウトナイ湖で見られる鳥類の変化



ウトナイ湖周辺湿地化(復元)の取組について

～ウトナイ湖・美々川・ウトナイ堰の位置関係～



ウトナイ堰
令和7年(2025年)現在

運用開始 1998年2月～

ウトナイ湖は美々川の他に勇払川等の河川が流入
→湖水は勇払川として太平洋に注いでいる

ウトナイ湖周辺湿地化(復元)の取組について

～ウトナイ湖水位調整による湿地化検証～

- フェンは湖水位+20cm～30cmに分布

	ウトナイ湖水位	比高（地盤高と湖水位との差）
ハンノキ	1.9～2.0m	0.4～0.5m以上
ホザキシモツケ	1.9～2.0m	0.2～0.5m
フェン	1.9～2.0m	0.2～0.3m以下

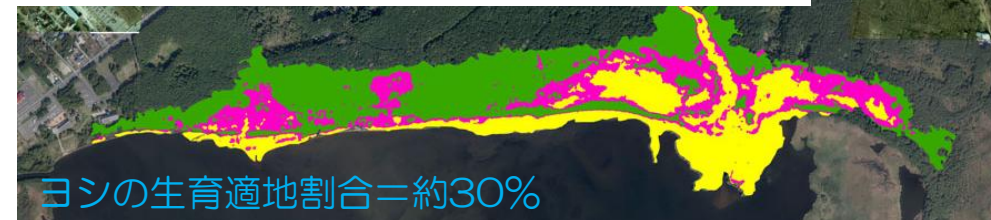
フェン・・・豊富な鉱物を含む地下水が供給され特有の植物群によって特徴づけられている総称

- 湖水位約2.3m(1970年頃)としたとき
→ フェンが53%になる予測
→ 目標値 53%で設定
- 湖水位目標2.1mから段階的に取組を開始
→ 現在は目標2.2mで運用中
近年は2.0～2.2mで変動

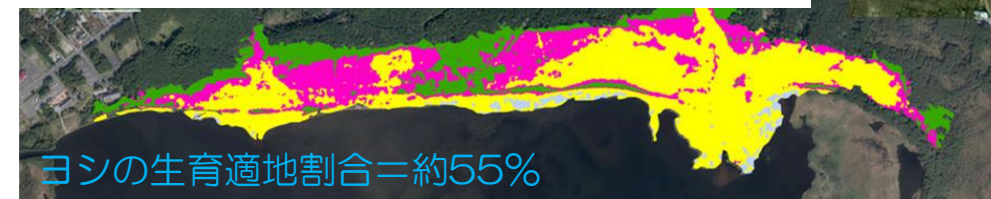
植生変化の予測（湖水位2.0m：2015年）



植生変化の予測（湖水位2.1m：+0.1m）



植生変化の予測（湖水位2.3m：+0.3m）



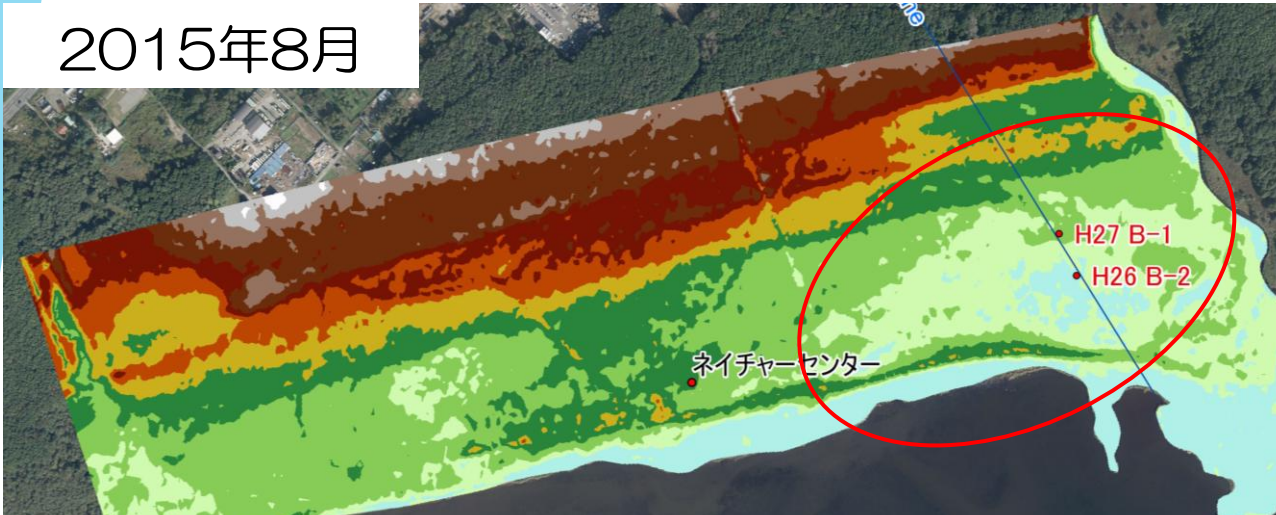
水面（～-0.3m） ヨシ（-0.3～0.2m） ホザキシモツケ（0.2～0.4m） ハンノキ（0.4m～）

湖水位 (m)	ヨシ (フェン)	ホザキシモツケ	ハンノキ
2.0	15%	23%	61%
2.1	29%	25%	46%
2.3	<u>53%</u>	26%	19%

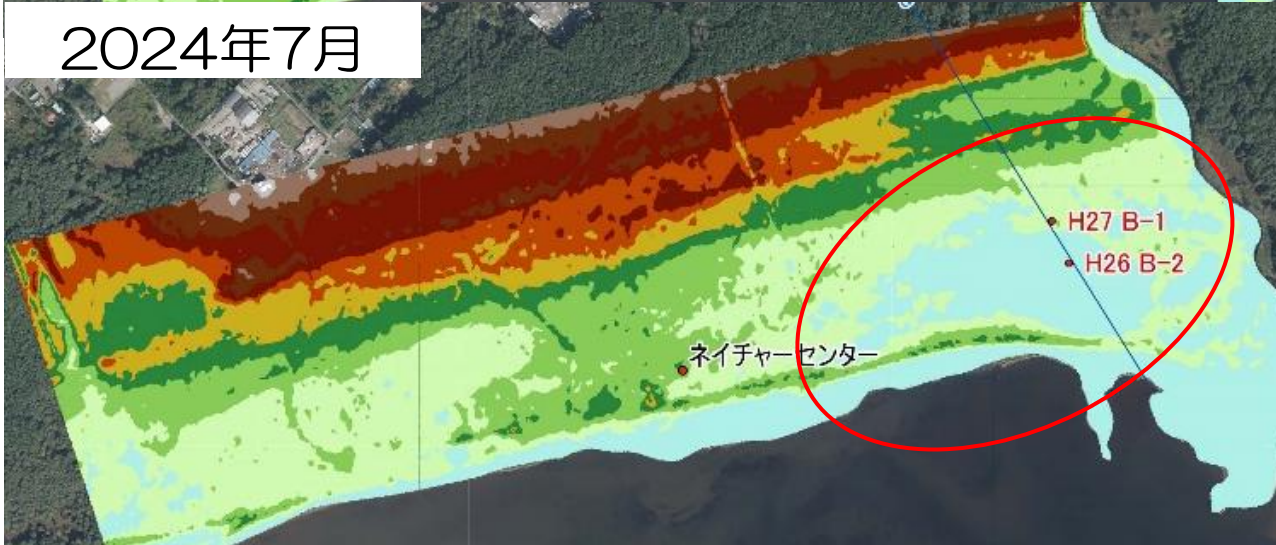
ウトナイ湖周辺湿地化(復元)の取組について

～モニタリング結果(北西岸冠水状況2015年-2024年比較)～

2015年8月

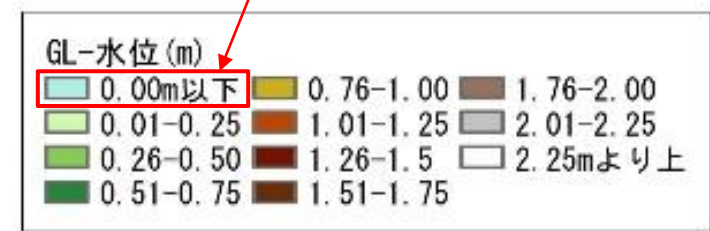


2024年7月



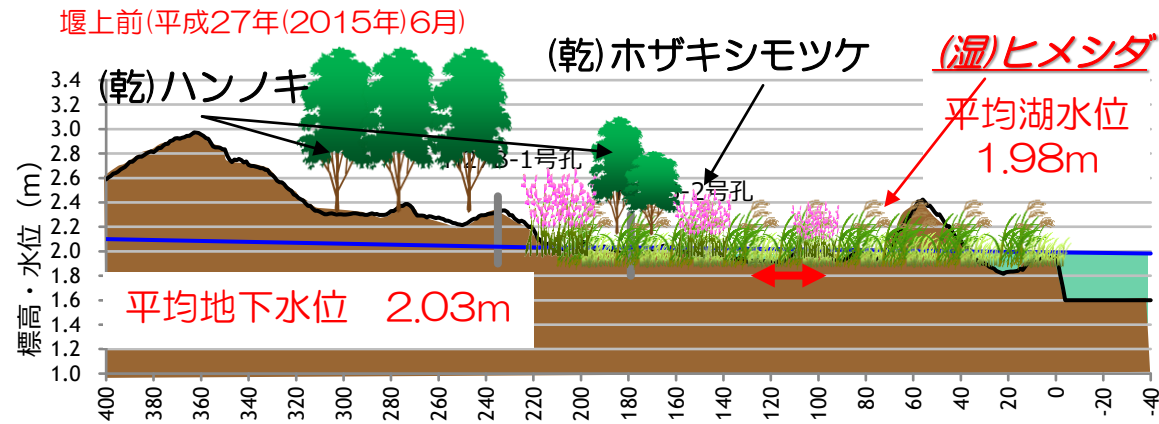
冠水範囲の拡大を確認

GL-水位が0m以下の範囲が冠水範囲

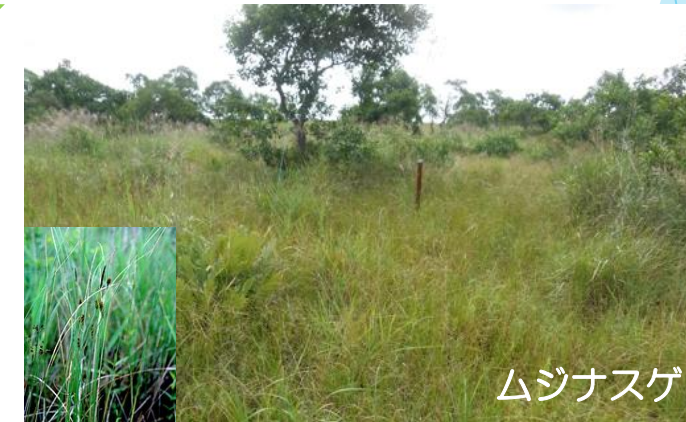
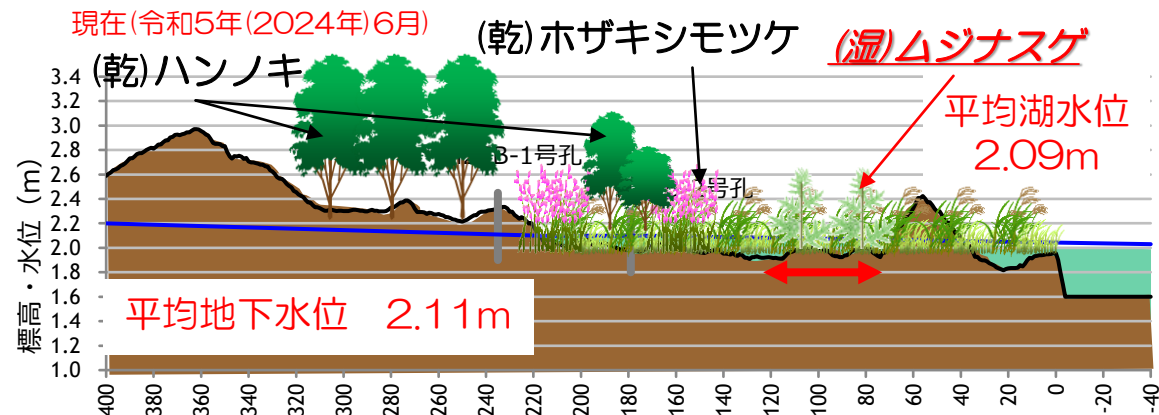


ウトナイ湖周辺湿地化(復元)の取組について

～モニタリングD～Eラインの植生変化～



平成27年(2015年)7月撮影

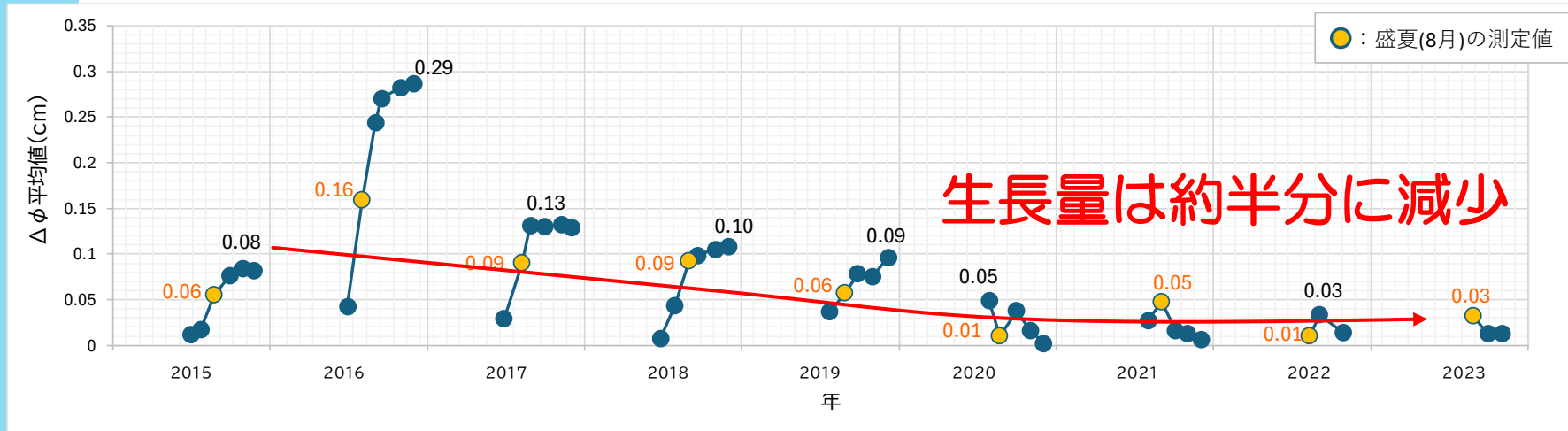


令和7年(2025年)8月撮影

湿生植物(フェン)の範囲拡大→湖水位上昇による効果を確認

ウトナイ湖周辺湿地化(復元)の取組について

～モニタリングハンノキ調査～



湖岸部ハンノキ林の平均直径生長量



ハンノキ直径計測

→ ハンノキの生長が鈍化している

今後の取組について

- 湿地環境の保全と復元

ウトナイ堰運用による湖水位調整の効果が着実に表れている

→今後も調査・検証する。

- 地域との共生

美々川・ウトナイ湖の自然環境は土地利用と密接な関係があり地域と連携した取組が必要である。

→出前授業（環境学習）やニュースレターによる情報発信を継続する。



千歳市立駒里中学校への出前授業(環境学習)
令和7年(2025年)6月

ご清聴ありがとうございました。

主な関係者

(地域の関係団体)

美々川自然再生技術検討懇談会

(調査設計関係者)

株式会社 ドーコン